

切り下株利用によるカーネーション 一斉二度切り栽培の作型

1. 試験のねらい

一斉二度切り栽培の作型の拡大を図るため、本県主要品種における定植時期別一度切りおよび二度切り栽培における開花時期を検討し作型設定の資とする。

2. 試験方法

一輪咲き品種ではアメリカ系品種のノラ、ヨーロッパ系品種のフランシスコ、レッドコルソー、サンドローサ、スプレー咲き品種ではヨーロッパ系品種のファンタジア、ロニア、アリセッタを用いて平成元年5月から平成2年2月までの10か月間、毎月月上旬に定植して検討した。定植一週間後に5節位でピンチし、主茎当たり4本の一次分枝を開花枝として仕立てた。開花枝は基部の5節位で収穫（一度切り）を行った。収穫後に残った4本の一次分枝の切り下には、それぞれ5節位の腋芽を残し、主茎当たり4本の二次分枝を仕立てて開花させ、二度目の収穫（二度切り）を行った。

一輪咲き品種は満開時、スプレー咲き品種は2輪開花時を開花日とし、切り花長、節数、切花重、上部茎径（1節と2節の節間部）、下部茎径（切り花の下から1節と2節の節間部）を調査した。

3. 試験結果および考察

(1) 定植時期と開花時期

いずれの品種でも花芽分化および花らいの発達が、薄暮時を除く自然日長が12時間以下になる9～3月に行われると、到花日数が長くなった。一方、3～9月の長日期では到花日数が短縮され、100日程度の差になった。アリセッタはいずれの定植時期も他の品種に比べて開花が遅れた。特に、短日期には開花が70～90日と大幅に遅れた。また、いずれの品種も一度切り、二度切りとの間に到花日数の差はなかった。

開花始めから終わりまでの開花期間の中は、いずれの品種も、花らい発達初期が高温期にあたると、他の時期に比べ40～50日程度長くなった。これは向短日条件下でさらに拡大した。このような傾向は二度切りほど著しかった。これは、一度切りの採花日に巾があり、切り下からの芽の伸長に較差ができて更に巾が長くなったためと思われた。また、晩生品種のアリセッタでは、他の品種に比べどの作型でも開花期間の幅が長くなった。

(2) 定植時期と品質

いずれの品種も8月の高温期に開花すると切り花重で20.7～40.5g、切り花長で18.7～45.9cm劣り、商品性が低下した。したがってこの時期に開花期が遭遇しないよう定植時期を選ぶことが大切であると思われた。

4. 成果の要約

生産性の高い施設利用型の本県平坦地域における一斉二度切り栽培の定植適期は、ノラ、フランシスコ、レッドコルソー、サンドローサで6月、7月、12月、1月、2月、ファンタジア、ロニアで6月、7月、11月、12月、1月、アリセッタは5月、9月、10月、11月であった。

以上のことに基づいて、一斉二度切り栽培における定植期と開花期の関係を示す品種別作型モデル（図－1）を作成した。

（担当者 花き部 鈴木正史）

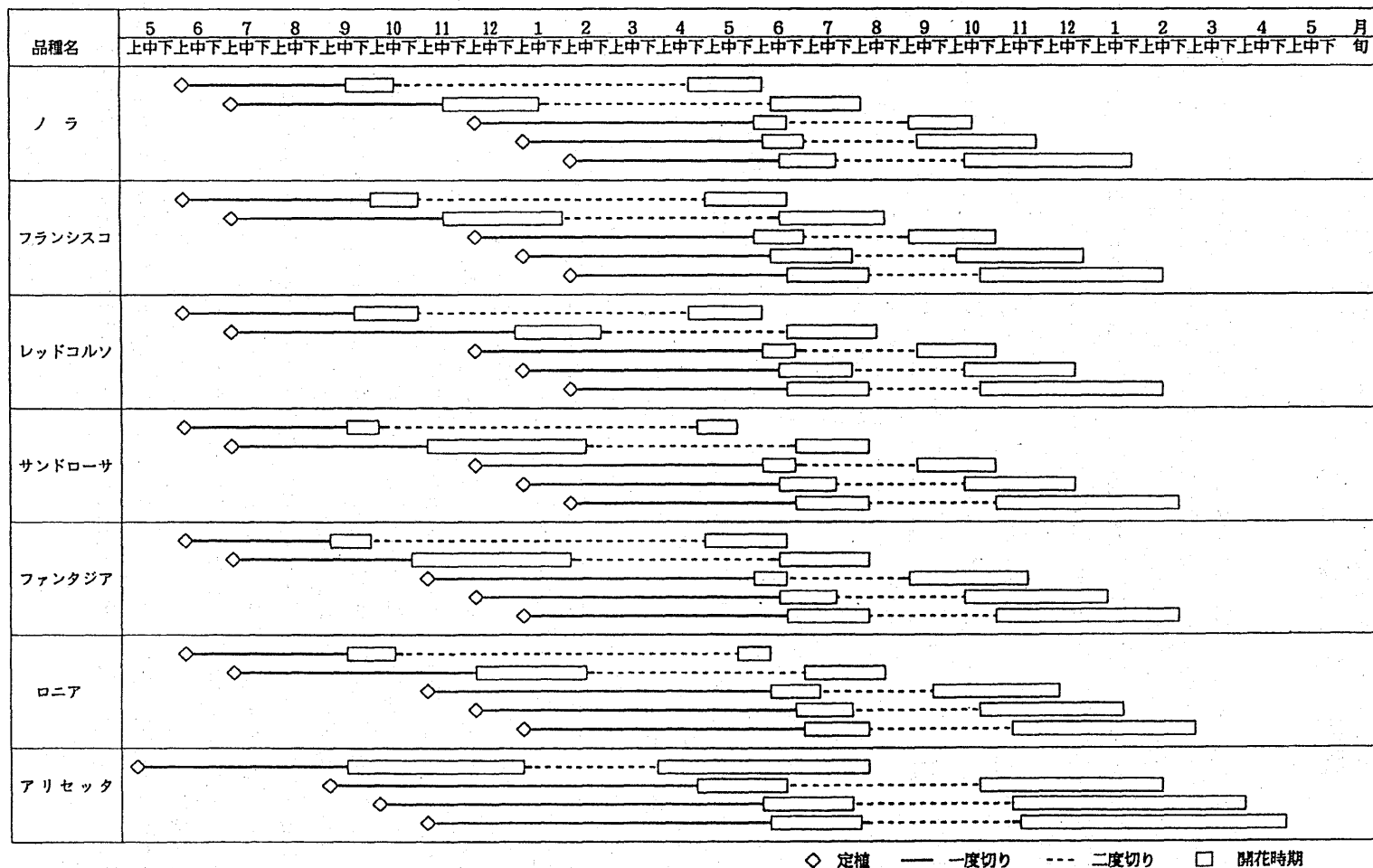


図-1 平坦地栽培のための品種別有望作型モデル